介護付有料老人ホーム
つどいの杜

痛みの軽減！

～ 再び心から笑える様に ～

医療福祉科3年　牛嶋倖志郎

ICF表

健康状況

○要介護5
○パーキンソン病
○障害高齢者の日常生活自立度:B1
○認知症高齢者の日常生活自立度:Ⅲb

心身機能・身体機能

○左手は多少動く
○1人で立つことはできないが介助者が抱えて支えると一時的に立つことが出来る。
○四肢の筋固縮や安静時振戦が見られる
○体幹は斜めに傾いている
○体温:36,0　脈拍:61回/分　血圧

活動

○排泄:昼間はトイレで２人介助を行い排泄可能。
夜間はベッドでパッドに排泄
○入浴:全介助でシャワー浴が出来る
○食事:全介助だが食欲はある
○移動:手足が動かず車椅子を使用。全介助で行う

参加

○リハビリへの参加
○施設内での行事（レクリエーション）への参加
○余暇活動には参加しない

環境因子

○令和2年5月より介護付有料老人ホームに入居。
○居室には、テレビとベッドがある

個人因子

○KY様、71歳、女性、元英語教師
○母親の介護を平成23年4月から平成26年12月まで行った。
○55歳の時に文字が書けなくなる。その時退職。

筋固縮

安静時振戦

K.Y様

71歳

女性

要介護度5

筋固縮
安静時振戦
姿勢反射障害

が見られる

居室で椅子に座って
過ごされる
↓
下肢の浮腫に繋がる

浮腫が見られる
↓
痛みがある

情報の解釈・関連付け・統合化

上肢の
筋固縮
[illegible]

ナースコール
を押すことが困
難になる

上肢の
可動域の低下

パーキンソン病
による体の痛み
[illegible]

QOL
の低下

[illegible]が
できない

浮腫による
下肢[illegible]の
低下

立位時に踏
ん張ることが困
難になる

生活課題

自立

自分の意思でナースコールを押すことができなくなる可能性がある

快適

パーキンソン病の痛みによるQOLの低下の可能性がある

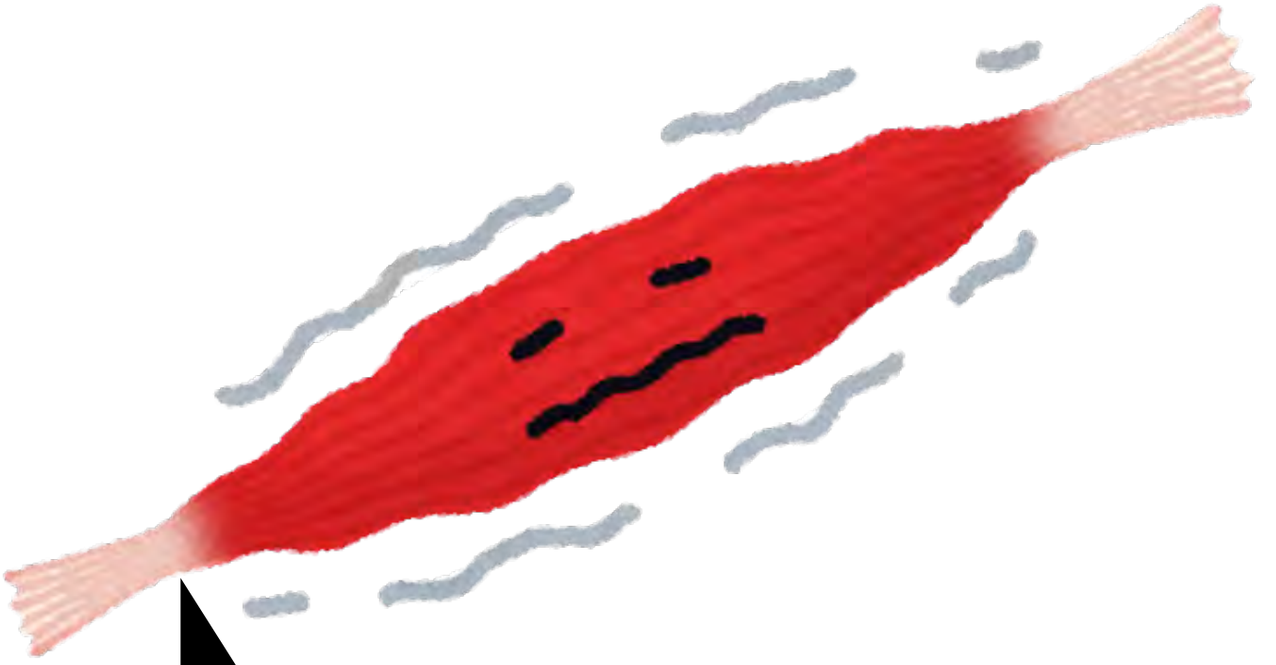
安全

安全な移乗ができなくなる可能性がある

四肢が冷たい

下肢の浮腫が見られる

筋肉痛がある



血行が悪い

願い

少しでも楽に過ごしたい

長期目標

リラックスした
過ごすことができる

浮腫の改善

血行促進

筋肉痛の改善

筋肉の弛緩

温める

パーキンソン病

体温調節ができなくなる。
安静時振戦による熱。
固縮による熱の発散が難しい。

↓

温めることは望ましくない

短期目標

○1日に1300mlの水分を摂ることができる

○居室でも一日に1回以上体操ができる

point

本人の気持ちを大切にする！

支援内容

水分補給

〈実施時間〉

○食事中
○リハビリ後
○おやつ時

〈効果〉

○血行促進
○浮腫改善

1日の流れ

6:00	起床
7:00	朝食
10:00	リハビリテーション
11:00	入浴
12:00	昼食
13:00	休憩
15:00	おやつ
17:00	夕食
21:00	就寝

体操

水分補給

水分補給

水分補給

体操

体操

水分補給

水分補給

水分補給

笑顔でコミュニケーション

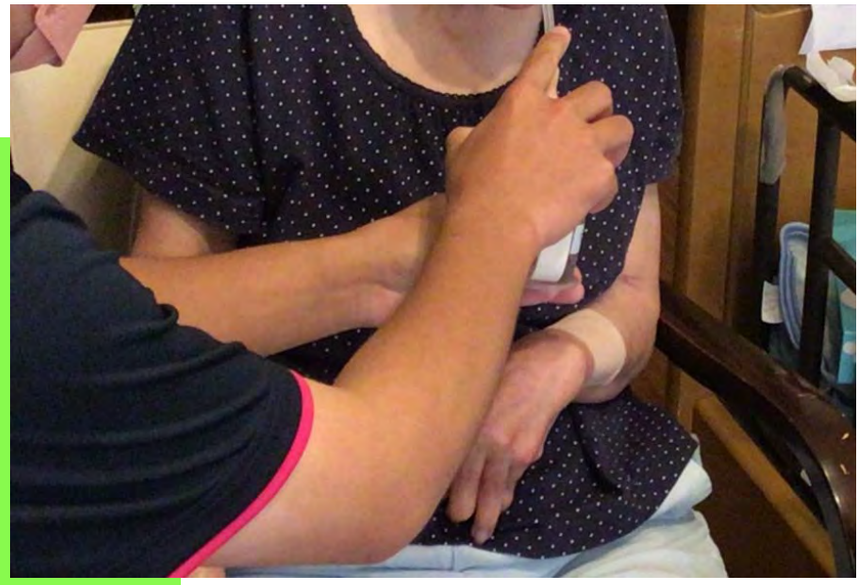
笑う

脳がリラックスできる

脳の働きが活発になる

精神的リラックス

評価



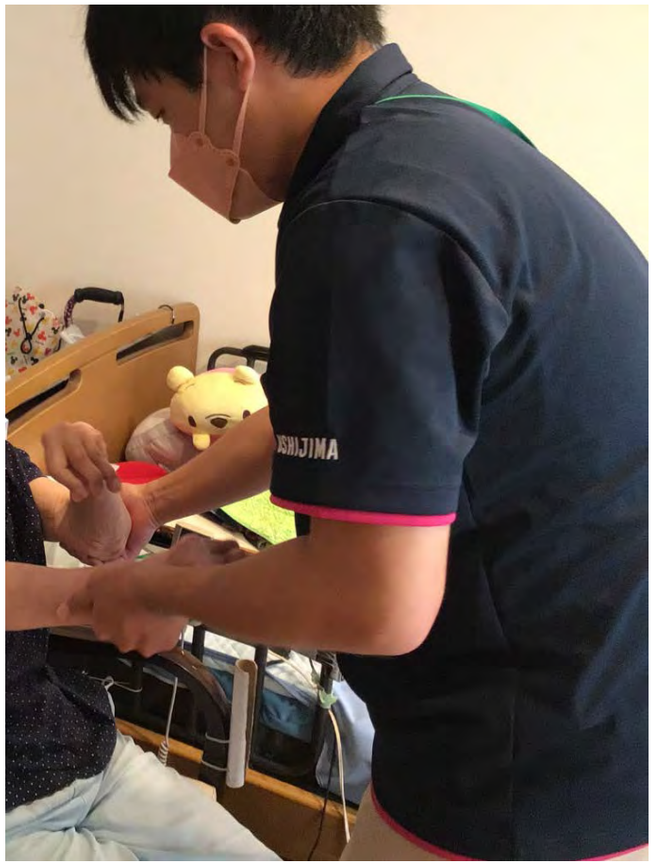
水分補給

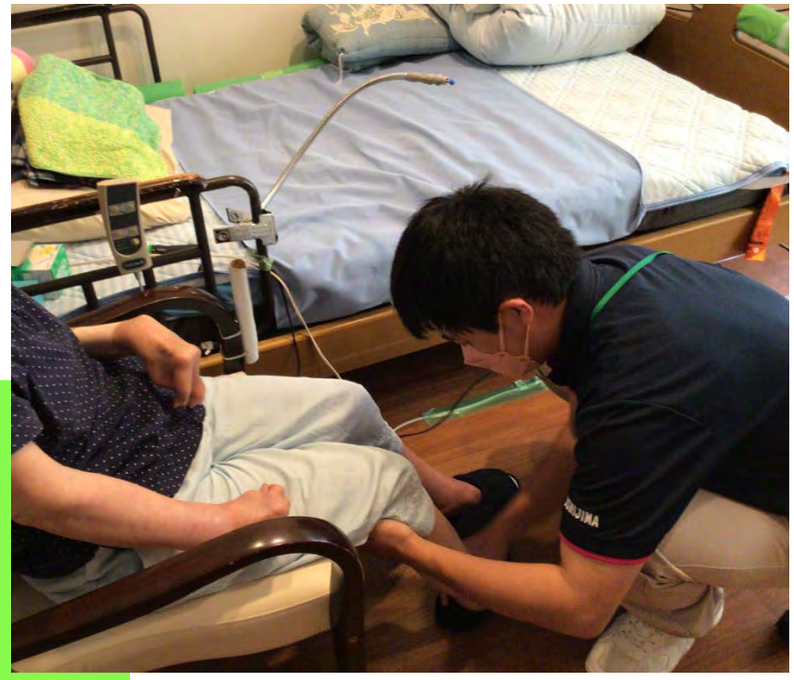
声かけをすることで意識的に
取ってもらった。
500ml→1000ml
浮腫の改善は見られなかった

腕を上下に動かす体操

毎日行うことができた。
実施すると少し笑顔になられた

普通の人でいう背伸びと同じ効果があると考えられる





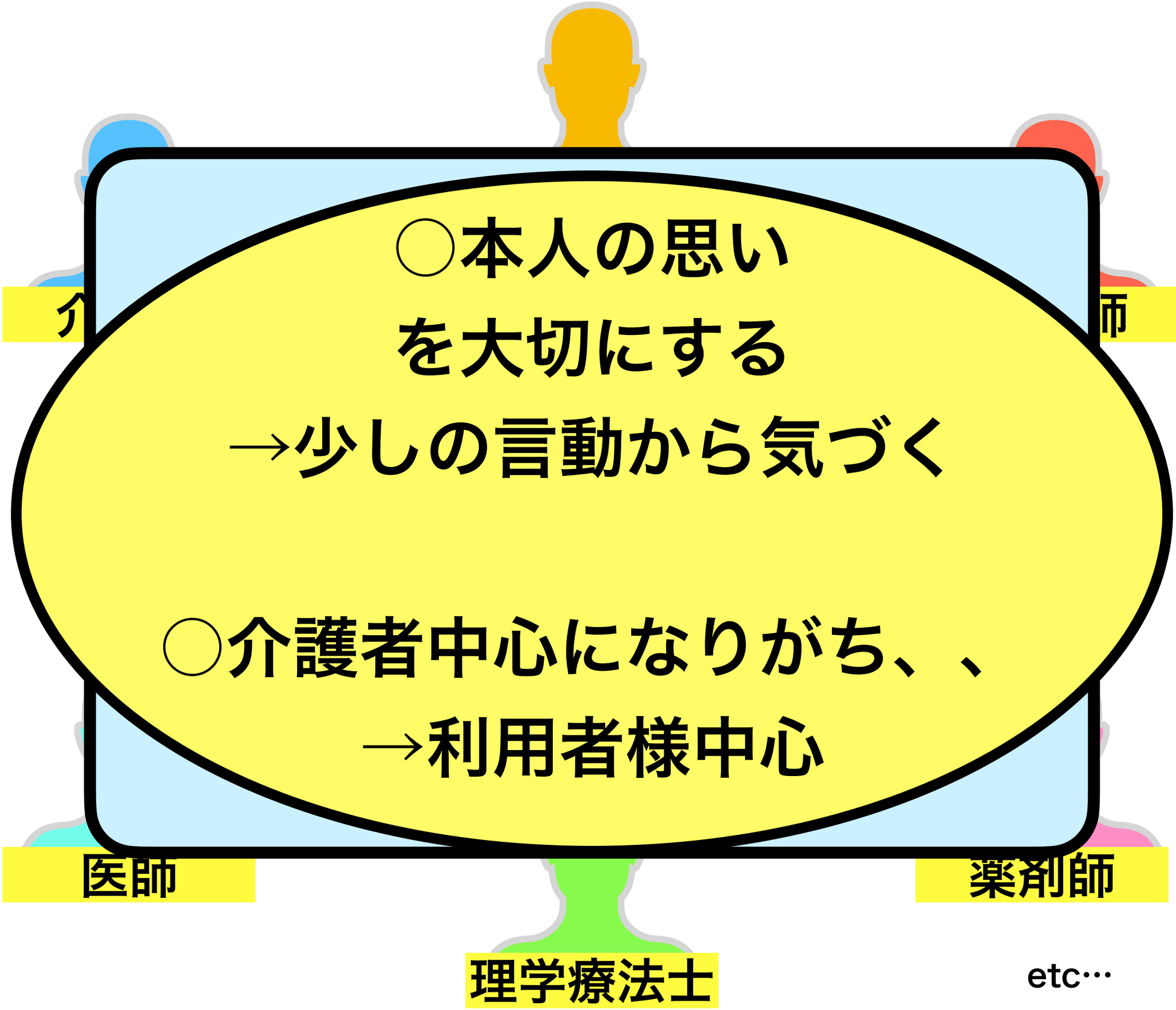
足の屈伸体操

腕の上下を行った際に
足の曲げ伸ばしができた。
マッサージや体操をすると、
少しだけ足が温かくなった。
→血行促進ができた

自己反省

○身体的支援を中心に行い、
精神的アプローチが少なかった
→趣味であった旅行と結び付けることで
本人様にとって楽しい支援になる

○職員の方との連携がうまく取れず
実施があまり出来なかった
→担当利用者様のために連携は必要不可欠


介
師
○本人の思い
を大切にする
→少しの言動から気づく
○介護者中心になりがち、、
→利用者様中心
医師
薬剤師
理学療法士
etc…

痛みの軽減！

～再び心から笑える様に～

ご静聴ありがとうございました

ありがとう
ございました

14:10～ 熊本県介護の魅力発信事業の報告会